

2016年2月21日

福音書からのメッセージ

だが、わたしは今日も明日も、その次の日も自分の道を進まねばならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ。

(ルカによる福音書13章33節)

ファリサイ派の人々が何人か近寄って来て、イエス様に言いました。「ここを立ち去ってください。ヘロデがあなたを殺そうとしています。」

ファリサイ派の人々は、イエス様が自分たちの近くにいると自分たちにも危害が及ぶと感じ、イエス様を排除しようとしたようです。そしてヘロデは、イエス様がいることで自分の心が乱されると思い、イエス様を殺そうとしていました。

このファリサイ派の人々とヘロデの姿は、わたしたちの姿と重なります。わたしたちはイエス様を受け入れたものの、その言葉によって自分が苦しくなったら言っていないのでしょうか。イエス様、ここを立ち去って下さい。ここから出て行ってくださいと。

また、自分の安らぎだけを求めて、イエス様の言葉がその安らぎを犯そうものなら、その言葉を頭の中から抹殺してしまう、ヘロデのようにイエス様の言葉を殺そうとしてはいいのでしょうか。

しかし、そのような人々の姿に気づきながらも、イエス様は言われます。「わたしは今日も明日も、その次の日も自分の道を進まねばならない」と。「ねばならない」と訳されている言葉には、神さまの意志を



表す語が用いられています。つまりイエス様は、神さまの意志によって、今日

も、明日も、その次の日も、ご自分の道、十字架に向けて進むのです。それは何故でしょうか。それはほかならないわたしたちのためなのです。十字架の死によって、わたしたちを救うためでした。

どれだけ人間がそっぽを向いたとしても、イエス様を邪魔者扱いし、神さまの手を離し、自分の力で生きていくと息巻いたとしても、神さまは何度だって、こっちにきなさい、わたしの元においで、と呼びかけ、心の扉をノックし続けてくださるので

イエス様の十字架、それは神さまの憐れみであり、わたしたちを生かしたいと願う神さまの意志です。今日も、明日も、その次の日も、わたしたちのために十字架へと歩まれる、そのイエス様の歩みに心を留め、わたしたちも共に歩む者となりましょう。

神さまはいつもあなたを呼んでおられます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>